も所外に出さぬ覺悟の所存なる事を發見したので

友愛會側はコハ人權蹂躙である、警察はコレを默視して居るか擅横も西尾大阪主事、賀川豐彦氏、幹部神戸主事等は打揃うて十三日午前十時府廳に田中警察部長並に加々美特高課長を訪問し事實を具申して詰問した

コノ席上田中、加々美兩氏は右の詰問を外らして意外にも仲裁話を持出した、コレに先立つて賀川氏は罷工側の第二の實行委員を會社側に認めさせ何とか妥協方法を講ぜんとの意を藏して居たので先づ大體の諒解を得んと快よく仲裁談に應じ

一、團體交渉確認

二、犧牲者を出さゞる事

の二箇條以外の諸件は總て讓步する旨提示した、田中部長は其の意を諒とし三氏を別室に待たせて直に官舎に宮崎社長、島取締役、秋原庶務課長を招き加々美特高課長立會で調停談を切出したが宮崎氏は相當の理由を見せず一も二も無くお斷り申すとスゲ無く拒絶した、取附く島も無くなつた田中部長はスゴ〳〵と歸來『モウコレ以上口は利かぬ、君等の思ふ樣にやつて呉れ給へ』と匙を投げ出した上、萬一會社側に於て官權の名を藉りて左樣な發界に出づる者あれば徹底的に摘發檢擧する旨明言した、賀川氏等もコレに意を安んじ不撤底の妥協を避し徹底的に奮鬪する

務課長は若林技師長を帶同府廳に加々美課長を訪ね密談し正十二時退出した、會談の内容は當日午前友愛會側賀川、西尾氏等が會社側

早く手當と積立金を支給します十六日ともいひますが今日からでも支拂つて全然絆を絶つた方がお互に早く埒がつく譯と思ひますから重役會議には事後承諾としても是非決行する積りです云々』

口代議士をも招致し都合によつては双方を會見せしめる段取で縣立持久戰の觀を呈あり二者力國粹會の仲裁も及てゐた二ため皆行詰つてし會が容れぬあつた

兩者の意見の扞格で

双方會見せず物別れ

一縷の望あり調停尚進まん

然るに友愛會側では「解雇職工は全部從來通り會社の從業員とした上に交渉すべし」と稱し會社側では島取締役「絶對に不可論を唱へたので兩者を會合さす豫定が狂ひ會社側が先づ行き上げ物別れとなつた併し眞底に於ては兩者とも落ちつく所に落ち附かんとこの意志があるので此儘打切りとなつた譯でもなく解決すべき一縷の望みはあるそこで之を漸次踏として調停は尚ほ進むものと見なければなるまい因に復歸職工は十三日午後六時までに四百十三名に達した

赤木綿の大旗を靡かせて

八百名の大示威運動

八ツ當りの演説に氣勢凄じく

十三日午後三時頃大雨の職首職工は友愛會員と合して約八百名ばかり西區河岸町空地に集合し盛に氣勢を擧げ電燈會社、警察新聞社等の攻擊演説會を開催し會員の飛入演説引續きて形勢不穏なので川口署、九條署、朝日橋署より警官を增派して取締を嚴にしたが午後四時二十分に至り八百名の同勢は五百名と三百名の二隊に分れて友愛會員に引率され赤木綿の大旗を先頭に勞働歌を高唱しながら春日出、安治川兩發電所前を示威運動を行ひつゝ門前を通り西區傳法町三丁目保山寺にて再び八つ當りの演説を行ふた警戒の正私服巡査は已に二百名と目せられたが午後十時迄に至り無事解散した